



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/7 (月)	+ 700	トン	+ 700	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 補充供給 + 100		日: 景気一致指数 (4月) 米: 消費者信用残高 (4月)
6/8 (火)	トン	+ 8,000	+ 8,000				日: GDP(1Q) 日: 国際収支 (4月) 米: 貿易収支 (4月) 欧: ユーロ圏GDP (1Q)
6/9 (水)	トン	▲ 12,000	▲ 12,000	国債発行 (30年)	共通担保 ▲ 3,400		米: 卸売在庫 (4月)
6/10 (木)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M)			日: 企業物価指数 (5月) 欧: E C B政策金利発表、 ラガルド総裁記者会見 米: CPI (5月) 米: 新規失業保険申請件数 (5日終了週) 米: 財政収支 (5月)
6/11 (金)	▲ 2,000	+ 2,000	トン		被災地支援 ▲ 500		米: ミシガン大学消費者マインド指数 (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初529兆9,700億円から始まった。その後は国債・国庫短期証券の発行や税・保険揚げなどを主因に同残高は減少し、518兆3,200億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.034%から始まり、2日には△0.043%と2021年3月31日以来の低水準となった。その後は税・保険揚げを経て、銀行業態を中心に調達ニーズが強まったことで、同金利は上昇する展開となり、週末4日は△0.034%となった。

ターム物は1~2Wのショートタームを中心に△0.020%~△0.010%の出合いが散見された。

来週の主な予定は、国内では8日にGDP (1Q) や貿易収支 (4月) の公表などがあり、

海外では10日にECB政策金利発表・ラガルド総裁記者会見や米CPI (5月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.080 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.050
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.070 ~ 0.00

<レボ>

足許GC取引は週初△0.10%近辺の出合いから始まった。短国買入オペがオファーされた6月1日には△0.095~△0.085%近辺で推移。その後、レートは上昇傾向となり、短国3Mの入札日である4日の取引では、△0.07%台まで上昇し越えた。SC取引では2年409~425回債、5年136~147回債、10年331~362回債、20年164~176回債、30年59~70回債、40年9~13回債などに引合いが見られた。

<C P>

今週の入札発行総額は約3,400億円で、週間償還額 (約1,200億円) を上回った。入札発行市場は、週を通して発行件数は限定的であったものの、鉄鋼や石油等の一部業態で大型案件の入札が実施され、全体としては週間の償還を上回る発行が行われた。発行残高は先週末の24兆564億円から、3日時点で24兆6,705億円に増加した。5月31日時点のC P市場残高は24兆2,299億円と前月比で6,211億円の増加となった。

来週の週間償還額は、約6,300億円程度となっている。発行市場は、現状新規の大型案件は予定されておらず、償還額と同額程度の発行を見込む。一般事業法人の発行動向は、四半期末決算に向けた有利子負債の圧縮のため、期内物のショートターム物が中心となるであろう。発行レートは、幅広いレンジでの出合いが想定される。月末の大量償還を見据えた6月末越えのC P確保ニーズが強い他、コロナオペの残高は増加傾向にあり、担保目的等のCP引受需要は依然として高い。よって、オペ対象となる希少銘柄等や月越えの発行に対しては深いマイナス金利での出合いが予想される。一方、大型の発行を行う銘柄では0%近辺での出合いも見込まれる。

<TDB>

6月4日入札の3M998回債は、最高落札利回り△0.0982%(前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1018%(同△0.1122%)となった。